

令和7年度起工第1号

県営ため池等整備事業(一般) 奥野地区

ため池工事

特記仕様書
(共通編)

令和7年6月

福岡県福岡農林事務所

1. 総則

1-1. 適用範囲

この仕様書は、「土木工事共通仕様書」（以下「共通仕様書」という）とともに、福岡県福岡農林事務所（以下「発注者」という。）が発注するため池等整備事業（一般）（奥野地区）ため池工事に適用し、発注者と受注者との間に締結された工事請負契約書に添付するもので、両仕様書間の効力は本仕様書が優先する。また、発注者の承認により下請け業者が存在する場合は、下請け業者にも適用する。

1-2. 準拠規定

本仕様書に記載なき規格及び基準等については、次の規格及び基準に従わなければならない。なお、これらの基準等については、契約時点における最新版を適用するものとする。

- 1 土木工事共通仕様書「令和7年4月」－福岡県農林水産部
- 2 土木工事施工管理基準「令和6年10月」－福岡県農林水産部（農業農村整備事業）
- 3 その他関連資料

1-3. 目的

本工事は奥野地区において、老朽化した奥野2号池の改修を行うものである。

1-4. 工事場所

福岡県福津市須多田

1-5. 工事概要

本工事は、奥野地区におけるため池工事で、主な工事内容は次の通りである。

- 1 堤体工事（L=47.4m：上流側）
- 2 取水施設工 一式（土砂吐工、斜樋工、底樋工）
- 3 仮設工 一式

1-6. 施工範囲

本工事の施工範囲は、平面図に示すとおりとする。

1-7. 工事の施工

- 1 受注者は、本工事の施工にあたり疑義が生じた場合、設計図書の内容を十分に照査点検したうえで、監督員と協議し、その指示に従わなければならない。
- 2 受注者は、工事施工の全過程に対して技術上の責任を負い、工事に関する交渉その他一切の手続きは監督員を通じて行うものとする。

1-8. 設計図書

- 1 設計書、設計図及び仕様書に関して疑義のある場合は、あらかじめ明確にし、施工前に監督員に確認しなければならない。
- 2 受注者は、工事施工にあたり、設計図書の照査等によって避け得る誤りに対しては責任を負うものとする。

1-9. 提出書類及び整備書類

- 1 受注者は、下記の福岡県庁のホームページに掲載されている「工事関係提出書類一覧表」最新版の書類を監督員に提出しなければならない。
福岡県庁ホームページ（<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/gkanri.html>）
- 2 受注者は、次の各項目の書類及び帳簿を備え、これを整理し、監督員に提出しなければならない。
 - ア. 工事打合書
 - イ. 施工管理関係記録
 - ウ. 工事写真
 - エ. 一般競争入札時の総合評価に係る技術提案については、これを整理し、監督員と協議を行うこととする。
 - オ. その他必要な書類
 - ・ 福岡県ホームページアドレス
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/sekoukanrikizyun.html>

1-10. 検査

- 1 工事の検査のため、工事の一部または全部の施工を中止させ、施工部分を最小限度破壊する必要がある。検査に必要な労力、機械及び設備等は受注者が提供し、また充分な便宜を与えなければならない。

- 2 検査の結果、工事の全部または一部に欠陥が発見された時は、受注者は自らの負担において欠陥部分及び検査のための破壊部分を補修し、または取り替えなければならない。
- 3 受注者は、工事しゅん工後であったとしても、発注者はもとより、会計検査院及び農林水産省等の指示があった場合は、誠意を持って対応に努めるものとする。

1-11. 暴力団等による不当介入の排除対策

受注者は、当該工事の施工に当たって次に掲げる事項を遵守しなければならない。なお、違反したことが判明した場合は、原則として指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処するものとする。

- 1 暴力団等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに監督員に工事打合書等の書面で報告するとともに、所轄の警察署に届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
- 2 暴力団等から不当要求による被害又は工事妨害を受けた場合は、速やかに監督員に工事打合書等の書面で報告するとともに、所轄の警察署に被害届を提出すること。
- 3 1又は2の排除対策を講じたことにより、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、速やかに監督員と工程に関する協議を行うこと。

1-12. 工事成績評定について

1件の請負金額が500万円を超える建設工事は原則として工事成績評定を実施するが、災害応急仮工事、工事を伴わない仮設賃料については評定の必要が無い工事とする。

ただし、250万円を超える建設工事のうち受注者が希望する場合は工事成績評定の対象とすることができる。

1-13. 配置予定技術者の途中交代

- 1 配置予定技術者の途中交代が認められる場合としては、主任技術者等の死亡、傷病、又は退職等、真にやむを得ない場合のほか、下記に該当する場合である。
 - ① 受注者の責によらない理由により工事中止又は工事内容の大幅な変更が発生し、工期が延長された場合。
 - ② 橋梁、ポンプ、ゲート等の工場製作を含む工事であって、工場から現場へ工事の現場が移動する時点。
 - ③ ダムまたはトンネル等の大規模な工事で、一つの契約が複数年に及ぶ場合。
- 2 前項のいずれの場合であっても、受注者と発注者が協議し、工事の継続性、品質の確保等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。ただし、変更しようとする配置予定技術者は、本工事の入札説明書に定められた配置予定技術者に関する全ての条件を満たす者でなければならない。なお、配置予定技術者を変更した場合、変更後の配置予定技術者の技術力について、本工事の総合評価における「配置予定技術者の技術力」により評価した結果が、当初の配置予定技術者の評価結果を下回るときは、工事成績評定から5点を減じる。

1-14. 評価内容の担保

- 1 申請書又は技術資料等に虚偽の記載が判明した場合又は配置予定技術者を正当な理由なく変更した場合、指名停止等措置要綱に基づく指名停止を行うことがある。また、発注者による解除権を行使することがある。
- 2 入札時に提出された簡易な施工計画に記載された提案については、履行状況の検査を行う。検査の結果、受注者の責により施工計画が満たされていないと発注者が判断した場合は、次に掲げる措置を行う。ただし、施工条件の変更等により履行できないことについてやむを得ないものとして発注者が承認したものを除く。
 - 一 簡易な施工計画が履行されなかったとき、履行されなかった簡易な施工計画1事項につき、工事成績評定から5点を減じる。ただし、減点は10点を限度（配置予定技術者の変更における減点があるときを含む。）とする。
 - 二 履行されなかった簡易な施工計画が3事項以上あるなど特に悪質と認められるときは前項の規定を適用することがある。

1-15. 主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間

主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない期間は、下記に該当する場合である。

- 1 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの間）。
なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定める。
- 2 工事用地等の確保が未了、自然災害の発生又は埋蔵文化財調査等により、工事を全面的に一時中止している期間。

- 3 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間（工場製作過程での監理技術者による管理は必要であるが現場での専任は不要）。

1-16. 現場代理人の現場への常駐を要しない期間

現場代理人の現場への常駐を要しない期間は、下記に該当する場合とする。

- 1 請負契約の締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間。
- 2 工事の全部の施工を一時中止している期間（現場管理のため、発注者が工事現場への常駐を特に指示した場合を除く）。
- 3 橋梁、ポンプ、ゲート等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間。
- 4 前各号に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間。

1-17. 専任を要する主任技術者の兼務

請負代金の額が4,500万円以上（建築一式工事は9,000万円以上）の工事のうち、工事の対象となる工作物に一体性若しくは連続性が認められる工事又は施工にあたり相互に調整を要する工事、かつ、工事現場の相互の間隔が路程で10km程度の近接した場所において、同一の建設業者が施工する場合は、主任技術者は2箇所まで建設工事を管理することができる。

1-18. 現場代理人の兼務

以下の条件を全て満たす場合に現場代理人の兼務を認める。

- ・ 兼務工事件数は2件までとし、工事現場の相互の間隔が路程で10km程度の近接した場所であること。ただし、兼務する二件の工事現場が、それぞれ建設業法第26条第3項第1号の規定の適用を受ける主任技術者等（専任特例1号技術者）の配置が可能な工事現場の場合は、工事現場間の相互の間隔は、1日の勤務時間内で巡回可能であり、移動時間が概ね2時間以内であること。
- ・ 兼務しても安全管理、工程管理等の工事現場の運営、取締り及び権限の行使に支障がないと当事務所長が認めるものであること。
- ・ 監督員と常に携帯電話等で連絡をとれること。
- ・ 担当工事現場のいずれかに常駐するとともに、1日1回以上、担当工事現場を巡回し、現場の安全管理等に当たること。
- ・ 一方の現場を離れるときに連絡責任者を指名しておくこと。

1-19. 監理技術者（専任特例2号）の配置（監理技術者（専任特例2号）の配置を認める工事）

以下の要件を全て満たす場合に、建設業法第26条第3項第2号の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「監理技術者（専任特例2号）」という。）の配置を認める。

- ・ 建設業法第26条第3項第2号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
- ・ 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、監理技術者（専任特例2号）に求める技術検定種目と同じであること。
- ・ 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
- ・ 同一の監理技術者（専任特例2号）が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に2件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される場合に限る。）については、これら複数の工事を一の工事とみなす。）
- ・ 監理技術者（専任特例2号）が兼務できる工事は福岡県内の工事でなければならない。（県発注工事に限らない。）
- ・ 監理技術者（専任特例2号）は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
- ・ 監理技術者（専任特例2号）と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
- ・ 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
- ・ 現場の安全管理体制について、監理技術者（専任特例2号）が統括安全衛生責任者を兼ねていないこと。

1-20. 一般土木工事における主任技術者等の資格要件

(請負金額 4,500万円以上1億6,000万円未満)

本工事の主任技術者は次の1又は2に掲げる者でなければならない。また、監理技術者については、次の1又は2、かつ、3又は4に掲げる者でなければならない。

- 1 建設業法第27条第1項の規定による技術検定のうち、検定種目を1級若しくは2級の建設機械施工又は、1級若しくは2級(種別を「土木」とするものに限る。)の土木施工管理とするものに合格した者。
- 2 技術士法(昭和58年法律第25号)第4条第1項の規定による第二次試験のうち、技術部門を建設部門、農業部門(選択科目を「農業農村工学又は農業土木(平成30年度以前に合格した者に限る)」とするものに限る)、森林部門(選択科目を「森林土木」とするものに限る)、水産部門(選択科目を「水産土木」とするものに限る。)又は総合技術監理部門(選択科目を建設部門に係るもの、「農業農村工学」、「森林土木」又は「水産土木」とするものに限る。)とするものに合格した者。
- 3 監理技術者資格を有する者の申請により監理技術者資格者証を交付され、「国土交通大臣の登録を受けた講習」終了証明書の交付を受けた者。(平成16年2月末までに監理技術者証の交付を受けたものは、講習終了証明書は添付する必要はない。)
- 4 上記3と同等以上の資格を有するものと国土交通大臣が認定した者。

1-21. 建設業法第26条第3項第1号の規定の適用を受ける主任技術者等の配置

以下の要件を全て満たす場合に、建設業法第26条第3項第1号の規定の適用を受ける主任技術者等(以下、「専任特例1号技術者」という。)の配置する場合は、監理技術者制度運用マニュアルに定められる資格要件等を満足するものとし、かつ以下の要件をすべて満たすこと。

- ・ 各工事の請負金額が1億円未満(建築一式工事は2億円未満)であること。
- ・ 工事の工事現場間の距離が、同一の専任特例1号技術者がその1日の勤務時間内に巡回可能なものであり、かつ当該工事現場と他の工事現場との間の移動距離がおおむね片道2時間以内であること。
- ・ 下請け次数が3を超えていないこと。
- ・ 当該建設工事に置かれる専任特例1号技術者との連絡その他必要な措置を講ずるための者(以下、「連絡員」という。)を現場に置くこと。なお、土木一式工事又は建築一式工事の場合の連絡員は、当該工事と同業種の建設工事に関し、1年以上の実務経験を有するものであること。
- ・ CCUS等により、専任特例1号技術者が遠隔から現場作業員の入退場が確認できる措置を講じていること。
- ・ 人員の配置の計画書を作成し、現場着手前に監督員に提出したうえで、工事現場毎に備えおくこと。
- ・ 専任特例1号技術者が、当該工事現場以外の場所から当該工事現場の状況の確認をするために必要な映像及び音声の送受信が可能な情報通信機器(スマートフォン等)が設置され、当該機器を用いた通信を利用することが可能な環境が確保されていること。
- ・ 兼務する工事の数は2件を超えないこと。
- ・ 同一の専任特例1号技術者が兼任できる工事の工事種別及び発注機関(公共・民間等)については問わない。

1-22. 建設業法第26条の5の規定の適用を受ける営業所技術者又は特定営業所技術者の配置

以下の要件を全て満たす場合に、建設業法第26条の5の規定の適用を受ける営業所技術者又は特定営業所技術者(以下、「営業所技術者等」という。)が工事現場の主任技術者等を兼務することについては、監理技術者制度運用マニュアルに定められる資格要件等を満足するものとし、かつ以下の要件をすべて満たすこと。

- ・ 営業所技術者等が置かれている営業所において請負契約が締結された建設工事であること。
- ・ 各工事の請負金額が1億円未満(建築一式工事は2億円未満)であること。
- ・ 営業所と工事現場の距離が、同一の営業所技術者等がその1日の勤務時間内に巡回可能なものであり、かつ営業所から当該工事現場との間の移動距離がおおむね片道2時間以内であること。
- ・ 下請け次数が3を超えていないこと。
- ・ 当該建設工事に置かれる営業所技術者等との連絡その他必要な措置を講ずるための者(以下、「連絡員」という。)を現場に置くこと。
なお、土木一式工事又は建築一式工事の場合の連絡員は、当該工事と同業種の建設工事に関し、1年以上の実務経験を有するものであること。
- ・ CCUS等により、営業所技術者等が遠隔から現場作業員の入退場が確認できる措置を講じていること。
- ・ 人員の配置の計画書を作成し、現場着手前に監督員に提出したうえで、工事現場に備えおくこと。

- ・ 営業所技術者等が、当該工事現場以外の場所から当該工事現場の状況の確認をするために必要な映像及び音声の送受信が可能な情報通信機器（スマートフォン等）が設置され、当該機器を用いた通信を利用することが可能な環境が確保されていること。
- ・ 兼務する工事の数は1件を超えないこと。

1-23. 公共事業等への失業者吸収

受注者は、当該工事の施工に当たって次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 当該工事の施工に使用される無技能労働者のうち「公共職業安定所」（以下「安定所」という。）の紹介を受けて吸収しなければならない労働者の数は延70人とする。
ただし、下記2）に基づき安定所長が失業者雇い入れを指示（決定）した延人数が前記の延人数を下回るときは、その数とする。
- 2 当該工事の契約締結後、直ちに福岡県が定める「公共事業施行通知書」を所管の安定所に提出し、失業者雇い入れの指示（決定）を受けること。
この場合、受注者が手持労働者を有しているときは、安定所長から手持労働者の認定を受けることができる。
また、安定所の紹介による雇い入れが困難な場合は、安定所長の承諾を得て直接雇い入れることができる。
- 3 前項により安定所から失業者雇い入れの指示を受けたときは、「公共事業施行通知書」の写を添えて、県にその内容を報告すること。
- 4 当該工事が完成したときは、県が定める「公共事業失業者吸収証明書願ひ」を安定所に提出し、安定所長の証明を受けたうえ、しゅん工届に添付すること。
ただし、「公共事業施工通知書」において、手持ち労働者の認定や直接雇い入れの承諾のため、安定所による失業者の紹介がない場合は当該証明は省略することができる。

1-24. 認定リサイクル製品

- 1 本工事で再生加熱アスファルト混合物、再生クラッシャーラン及び再生粒調砕石を使用する場合は、福岡県リサイクル製品認定制度実施要綱第7条第5項の規定により認定した製品（以下「認定リサイクル製品」という。）を使用すること。
- 2 本工事では、以下の認定リサイクル製品を使用する。

材料	規格	工種

- 3 受注者は、使用する福岡県認定リサイクル製品の認定番号、認定日及び試験成績表発行日を材料使用承認願の使用承認願材料一覧表に記載し、有効期限内（試験成績表発行日から半年以内）の試験成績書を添付のうえ監督員に提出すること。
なお、材料搬入時点で試験成績書の有効期限が切れる場合は、材料使用承認願を再提出すること。
福岡県リサイクル製品認定制度ホームページ
<https://www.recycle-ken.or.jp/nintei/index.html>
- 4 受注者は、前条2に定められた認定リサイクル製品が入手できない場合は、監督員と協議すること。協議の結果、在庫がない場合等の理由により使用が不可能と判断される場合は、設計変更の対象とする。
この場合、「認定リサイクル製品 不使用理由書」を監督員に提出すること。

1-25. 被災地域における被災農林漁家の就労機会の確保

- 1 受注者は、工事の施工に当たっては、効率的な施工に配慮しつつ、被災地域における被災農林漁家の就労希望者を優先的に雇用するよう努めるものとする。
- 2 被災地域における被災農林漁家の雇用実績等を把握するために、就労希望者について以下の内容で整理するものとする。
 - (1) 工事着手時点における雇用見込み人数
 - (2) 月ごとの雇用実績人数

1-26. 被災者を雇用した建設業者への工事成績評定の取扱いについて

- 1 平成29年7月九州北部豪雨又は平成30年7月豪雨による被災者の就業支援を図るため、県発注工事において建設業者が被災者を雇用した場合、実績に応じて工事成績評定で加点を行う。
- 2 評価基準
 - (1) 対象工事
原則として1件の請負金額が500万円を超える建設工事。
ただし、1件の請負金額が250万円を超える工事のうち、受注者が希望する場合は、評定の対象とすることができる。
 - (2) 評価基準
平成29年7月九州北部豪雨又は平成30年7月豪雨による被災者（※1）を、対象工事の現場作業員として、10日以上雇用した場合に評価の対象とする。
（※1）被災者：平成29年7月九州北部豪雨又は平成30年7月豪雨で被災された方で、り災証明書、被災証明書で被災が確認できる方。
 - (3) 工事成績評定の取扱い
ア 対象工事において雇用実績があった場合は、当該工事の工事成績評定において「採点項目表（課長）」の6社会性等Ⅰ．地域への貢献等の「その他」の項目に該当するものとして取り扱う。
イ 1名につき1点、2名以上で最大2点とする。
 - (4) 雇用形態
雇用については、元請・下請けを問わず、臨時雇用も問わない。
- 3 雇用の実績の確認
監督員は、受注者が被災者を雇用した場合、竣工時に提出される「被災者雇用実績一覧表」について、建設業退職金共済制度における共済手帳の証紙等により、雇用日数の確認を行う。
- 4 被災者の確認のための提出書類
受注者は、該当者が以下の①、②のいずれかであることを確認できる書類の写しを「被災者雇用実績一覧表」に添付し、竣工時に監督員へ提出する。また、監督員は「被災者雇用実績一覧表」に記載された人物が被災者に該当するかどうかを提出書類により確認する。
 - ① 平成29年7月九州北部豪雨による被災者であること及び平成29年7月5日以降に雇用となった従業員
 - ② 平成30年7月豪雨による被災者であること及び平成30年7月5日以降に雇用となった従業員
(被災者確認) 市町村発行のり災証明書、被災証明書
(雇用確認) 雇用保険被保険者資格取得等確認通知書等（出勤簿でも可）
- 5 実施時期
平成29年7月九州北部豪雨：平成30年4月1日以降に工事成績を受ける工事
平成30年7月豪雨：平成30年9月3日以降に工事成績を受ける工事

1-27. 電子納品

- 1 本工事は、電子納品対象工事とする。
電子納品とは、各施工段階の最終成果を電子データで納品することをいう。
ここでいう電子データとは、「福岡県農林水産部（県営農業農村整備事業）電子納品運用ガイドライン（案）令和3年6月」（以下、「農林水産部ガイドライン案」）に示すファイルフォーマットに基づいて作成されたものを示す。なお、書面における署名又は押印の取り扱いについては、別途監督員と協議するものとする。
- 2 電子納品に関する基準は、農林水産部ガイドライン(案) 令和3年6月によるものとする。

1-28. 成果品の提出

成果品は、電子データをCD-R（DVD - R）に納め、2部提出する。
なお、「紙」による報告書の提出は、監督員と協議の上、決定する。

1-29. 高度技術、創意工夫または社会性等に関する実施状況について

受注者は、本工事の施工において自ら立案し実施した高度技術、創意工夫または社会性等（地域への貢献等）に関する事項がある場合は、工事完了までに書面にて監督員に報告することができる。

1-30. 熱中症対策に資する現場管理費の補正

- 1 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行工事の対象とし、日最高気温の状況に応じた現場管理費の補正を行う対象工事である。

- 2 用語の定義は次のとおりである。

ア 真夏日

日最高気温が30℃以上の日をいう。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が30度以上の場合とする。

イ 工期

準備・後片付け期間を含めた工期をいう。なお、年末年始休暇分として12月29日から1月3日までの6日間、7月～9月を含む工事では夏季休暇分として土日以外の3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、余裕期間を含めた工期の設定を行っている場合の余裕期間は含まない。

ウ 真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

真夏日率 = 工期期間中の真夏日 ÷ 工期

- 3 受注者は、工事着手前に工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載した工事打合書を作成し、監督員へ提出する。
- 4 気温の計測方法については、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数(WBGT)を用いることを標準とする。
なお、WBGTを用いる場合は、WBGTが25℃以上となる日を真夏日と見なす。
ただし、これによりがたい場合は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所以外の気象観測所で気象業務法(昭和27年法律第165号)に基づいた気象観測方法により得られた計測結果を用いることも可とする。
なお、計測に要する費用は受注者の負担とする。
- 5 受注者は、監督員へ計測結果の資料を提出する。
- 6 発注者は、受注者から提出された計測結果の資料を基に工期中の日最高気温から真夏日率を算定した上で補正値を算出し、現場管理費率に加算し設計変更を行うものとする。
補正値(%) = 真夏日率 × 補正係数※
※ 補正係数: 1.2

1-31. 週休2日工事の試行について

○ 現場閉所による週休2日工事の場合

- 1 本工事は、週休2日制を推進するため、4週8休以上の達成を前提とした、労務費、機械経費(賃料)、共通仮設費(率分)、現場管理費(率分)を補正した現場閉所による週休2日工事(受注者希望型)の試行対象工事である。4週8休に満たない場合及び週休2日の取組を希望しない場合については、当初積算の補正分を全て減ずるものとする。

- 2 その他、試行に当たっては、「福岡県農林水産部(農業農村整備事業関係)週休2日工事試行要領」により行う。

○ 週休2日交替制工事の場合

- 1 本工事は、週休2日制を推進するため、週休2日を実施した場合に労務費、現場管理費(率分)を補正し、設計変更を行うによる週休2日交替制工事(受注者希望型)の試行対象工事である。

4週6休以上を達成した場合は、工事請負契約書第25条の規定に基づき請負代金額のうち、それぞれの経費につき平均休日率に応じた補正係数を用いて補正し、請負代金額を増額変更する。

- 2 その他、試行に当たっては、「福岡県農林水産部(農業農村整備事業関係)週休2日工事試行要領」により行う。

※「福岡県農林水産部 週休2日工事 試行要領」掲載 福岡県ホームページアドレス

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nourinsuisanfiveday200401.html>

1-32. 快適トイレの設置について

受注者は、男女ともに快適に使用できる仮設トイレ(以下、「快適トイレ」という。)の建設現場への設置を監督員との協議により行う場合は、「建設現場に設置する「快適トイレ」の実施要領」に基づき、実施するものとする。

※参考HP:「建設現場に設置する「快適トイレ」の実施要領」

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nourin-comfortable-toilet.html>

1-33. 地域外からの労働者確保に要する間接工事費の設計変更について

- 1 本工事は、「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用（以下、「設計変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土地改良工事積算基準書（土木工事）の金額相当額では適正な工事の実施が困難になった場合は、設計変更対象費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する工事である。
営 繕 費 : 借上費、宿泊費、労働者送迎費
(借上費、宿泊費については労働者確保に係るものに限る。)
労 務 管 理 費 : 募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用
- 2 受注者は、地域外からの労働者確保に要する間接工事費の設計変更（以下、「間接工事費の設計変更」という。）を請求する場合は、実績報告書（様式1）及び設計変更対象費に実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書などをいう。）を監督員に提出し、「間接工事費の設計変更」の内容について協議するものとする。
なお、実績報告書及び証明書類の提出期限等については、監督員と協議のうえ決定するものとする。
- 3 受注者の責めによる工事工程の遅れ等、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、「間接工事費の設計変更」の対象としない。
- 4 発注者は、「間接工事費の設計変更」を行う場合は、設計変更対象費に実際支払った額のうち、証明書類において確認された費用から、積算基準により算出した共通仮設費率分及び現場管理費に含まれる設計変更対象費分を差し引いた費用を、積算基準により算出した共通仮設費及び現場管理費に加算し、精算変更時の設計額を算出するものとする。
- 5 発注者は、受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。
- 6 疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。

1-34. 工事写真における黑板情報の電子化について

- 1 本工事で工事写真における黑板情報の電子化を行う場合は、工事契約後、監督員の承諾を得たうえで工事写真における黑板情報の電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。対象工事では、以下の（1）から（4）の全てを実施することとする。
 - (1) 対象機器の導入
受注者は、工事写真における黑板情報の電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、本工事に適用される施工管理基準の撮影記録による出来形管理「撮影方法」に示す黑板に記入する事項の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC暗号リスト）」（URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載している技術を使用していること。
また、受注者は監督員に対し、工事着手前に本工事での使用機器について提示するものとする。
なお、使用機器の事例として、「デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア」（URL「http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html」）を参照されたい。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。
 - (2) 工事写真における黑板情報の電子的記入
受注者は、（1）の使用機器を用いて工事写真を撮影する場合は、被写体と黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。黑板情報の電子的記入を行う項目は、本工事に適用される施工管理基準の撮影記録による出来形管理「撮影方法」に示す黑板に記入する事項による。
 - (3) 黑板情報の電子的記入の取扱い
本工事の工事写真の取扱いは、本工事に適用される施工管理基準の撮影記録による出来形管理に準ずる。
なお、（2）に示す黑板情報の電子的記入については、不正な写真加工には該当しない。
 - (4) 黑板情報の電子的記入を行った写真の納品
受注者は、（2）に示す黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は（URL「http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html」）のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督員へ提出するものとする。
なお、提出された信憑性確認の結果を、監督員が確認することがある。

1-35. 現場環境改善費について

- 1 現場環境改善費の内容は以下のとおりとし、原則として計上費目のそれぞれ1内容以上選択し合計5つの内容を実施することとする。
ただし、地域の状況・工事内容により組合せ及び実施内容を変更してもよい。
詳細については、監督員と協議実施する。なお、内容に変更が生じた場合は、監督員と協議するものとする。
- 2 以下に示す内容において、受注者は、具体的な実施内容、実施期間を施工計画書に記載して監督員に提出するものとする。
- 3 受注者は、工事完成時に現場環境改善費の実施状況が分かる写真を内容ごとに監督員に提出するものとする。

計上項目	実施する内容(率計上分)
仮設備関係	①用水・電力等の供給設備 ②緑化・花壇 ③ライトアップ施設 ④見学路及び椅子の設置 ⑤昇降設備の充実 ⑥環境負荷の低減
営繕関係	①現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） ②労働者宿舍の快適化 ③デザインボックス（交通誘導警備員待機室） ④現場休憩所の快適化 ⑤健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	①工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） ②盗難防止対策（警報器等） ③避暑（熱中症予防）・防寒対策
地域連携	①地域対策費（農家との調整、地域行事等の経費を含む） ②完成予想図 ③工法説明図 ④工事工程表 ⑤デザイン工事看板（各工事PR看板含む） ⑥見学会等の開催（イベント等の実施含む） ⑦見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 ⑧パンフレット・工法説明ビデオ ⑨社会貢献

1-36. 建設現場の遠隔臨場 試行工事について

- 1 本工事は、農林水産部発注工事において「段階確認」、「材料確認」と「立会」を必要とする作業に遠隔臨場を適用して、受発注者の作業効率化を図ることにより、働き方改革の促進と生産性向上を実現することを目的とした試行工事である。
- 2 試行内容については、別紙「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領」を参照すること。
- 3 試行対象工事は、受注者が工事契約後に実施するか否かを判断し、発注者と協議を行い実施の有無を決定するものとする。
試行要領は、以下に掲載。

【福岡県ホームページ】

URL:<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nrs-remote-presence.html>

1-37. 建設副産物情報交換システム「COBRIS」の運用について

- 1 本工事は、建設副産物情報交換システム「COBRIS」（以下「COBRIS」）の登録対象工事であり、受注者は、施工計画作成時（作成しない場合は、工事着手前）、しゅん工時及び登録情報の変更が生じた場合は、速やかに「COBRIS」にデータの入力を行い、建設副産物情報交換システム工事登録証明書、再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）の様式を出力し監督員に提出すること。なお、「COBRIS」の操作に要する費用は、共通仮設率に含まれる。また、工事登録時に必要となる利用申し込み等、システムに関する問い合わせは次による。

建設副産物情報センターHP URL：<http://www.recycle.jacic.or.jp/>

- 2 受注者は、1で定められた建設副産物情報交換システム工事登録証明書、再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）の様式を提出する際は、「COBRIS」から出力できる「チェックリスト」により、登録情報に誤りがないか確認し、疑義が生じた場合には、監督員と協議の上、適切に登録すること。なお、「チェックリスト」は、様式を提出する際に監督員に参考提示すること。また、「チェックリスト」の出力方法及び解説については、次による。

チェックリスト解説書（平成30年度建設副産物実態調査：COBRIS排出事業者用）

URL：https://www.recycle.jacic.or.jp/osirase/release/H30chk_cobris2.pdf

1-38. ICT活用工事について

- 1 本工事は、「福岡県農林水産部 ICT活用工事試行要領（農業農村整備事業関係）」（以下「試行要領」という。）に基づき、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、出来形管理資料の作成等の各段階において情報化施工技術を活用する「ICT活用工事」（受注者希望型）である。
- 2 本工事のICT施工技術の活用必須工種は土工、堤体工である。
- 3 ICT活用工事とは、施工プロセスの各段階において、以下に示す①～⑤のICT施工技術を活用する工事である。
 - ① 3次元起工測量
 - ② 3次元設計データ等作成
 - ③ ICT建設機械による施工
 - ④ 3次元出来形管理等の施工管理
 - ⑤ 3次元データの納品
- 4 受注者は、ICT活用工事としての実施を希望する場合は、施工計画書提出までにICT活用工事計画書（別記様式-1）を監督員へ提出した上で協議を行い、協議が整った場合にICT活用工事を行うことができる。ただし、上記2の②、④～⑤または②～③の活用を必須とする。

なお、情報化施工技術の活用を希望しない場合は、その旨監督員に報告する。
- 5 受注者は、実施内容等について施工計画書に記載するものとする。
- 6 基本設計データの作成のために必要な貸与資料は、次のとおりである。この他必要な資料がある場合には、監督員と協議するものとする。なお、貸与を受けた資料については、速やかに監督員へ返却しなければならない。
 - ・奥野地区業務報告書 測量成果品
 - ・図面のCADデータ
- 7 受注者は、監督員が行う段階確認等や検査員が行うしゅん工検査等において、必要に応じて施工管理データが組み込まれた出来形管理用TS等光波方式等を準備しなければならない。
- 8 受注者は、情報化施工技術に係る資料について、工事完成図書として電子納品する。
- 9 ICT活用工事の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは受注者が作成するものとし、使用するアプリケーションソフト、ファイル形式については、事前に監督員と協議するものとする。
- 10 ICT活用工事の実施にあたっては、本特記仕様書に疑義が生じた場合又は記載のない事項については、監督員と協議するものとする。

1-39. ICT活用工事の費用について

契約後、受発注者の間で協議が整い、福岡県農林水産部 ICT活用工事試行要領（農業農村整備事業関係）に基づきICT活用工事を実施した場合は、設計変更の対象とする。受注者は、発注者から依頼する歩掛や経費等の見積依頼に応じなければならない。また、発注者の指示により歩掛調査を実施する場合には協力しなければならない。

1-40. 建設キャリアアップシステム（CCUS）活用工事の試行について

本工事は、公共工事の品質確保のため、優れた技能と経験を有する技能者を将来にわたって確保・育成することが不可欠であることから、建設キャリアアップシステム（以下「CCUS」という。）の活用を促し、技能者の処遇改善等に配慮することを目的としたCCUS活用対象工事である。

試行内容については、ホームページの「建設キャリアアップシステム（CCUS）活用工事の試行について」を参照すること。

ホームページ：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nourinnsuisann-ccus.html>

受注者は、CCUSの活用を希望する場合、工事着手までに、CCUS活用の意向について、工事打合書にて監督員に提出するものとする。（受注者希望型）

1-41. 情報共有システム（ASP方式）の対象工事について

福岡県農林水産部が発注する全ての建設工事及び工事に係る業務を対象とする。ただし、福岡県が運用している電子納品／情報共有システムを利用する場合や、工事契約後に受発注者間で協議し、システムを利用することが適当でないと判断される場合は、適用対象外とすることができる。

詳細については、ホームページの「福岡県農林水産部における情報共有システム（ASP方式）に関する試行について」によること。

ホームページ：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/nourinnsuisann-jyohoukyouyuu-asp.html>

1-42. 定めなき事項

- 1 契約書、設計図書及び本仕様書に示されていない事項であっても、構造・機能上または製作・据付上、当然必要と認められる軽微な事項については、受注者の負担で処理するものとする。
- 2 この仕様書に定めない事項は、監督員と協議するものとする。

2. 施工

2-1. 建設発生土の搬出先【準指定】

1. 建設発生土の搬出先は不良土は(株)木村組（宗像市吉田）、改良土は(株)双一開発（宮若市四郎丸）とする。
2. 発注者が新たに別途搬出先を指定した場合は、処理費・運搬距離を変更する。
3. 受注者は設計における搬出先と異なる搬出先を選定した場合、処分地までの運搬経路を発注者に報告すること。
4. 別紙搬出先一覧にない処分地に建設発生土を搬出したい場合、受注者は別途発注者と協議し、承認を受けること。
5. 契約後速やかに、「建設発生土処分地計画書」を発注者へ提出するものとする。
6. 施工後は「建設発生土処分地確認書」を発注者へ提出するものとする。
7. 処分地内のトラブル等は受注者の責任のうえ解決にあたること。
8. その他の詳細については、監督員と協議すること。

2-2. 施工条件について

本工事の施工にあたっての施工条件を下記に明記するので、受注者は、施工計画書の作成時及び工事施工時においては、十分留意するものとする。

なお、明示した施工条件に変更が生じた場合は、契約変更の対象とすることができる。また、施工条件が当初の段階で想定できず、工事実施期間中に発生した場合についても、受発注者で協議し、契約変更の対象とすることができる。

- 1) 用地関係
 - ・ 工事用資材の積替場として、別添位置図に示した箇所を工事期間中に使用可能とする。なお、使用中は工事現場と同様の安全対策等を行うものとする。
- 2) 安全対策関係
(例)
 - ・ 工事現場の危険個所については、第三者の立入りを禁止し、その範囲をバリケート、赤電灯等で囲うとともに、「立入り禁止」の標示をすること。
 - ・ 地域住民及びその車両の通行に危険が及ばないように、集落内通行時は時速20km以下とすること。
- 3) 工事用道路関係
 - ・ 本工事にて設置した仮設道路は工事終了後も存置すること。
- 4) 環境への配慮
 - ・ 工事実施前及び工事実施中に希少動植物を発見した場合は監督員へ報告のうえ、近傍の生息可能域へ移動すること。
 - ・ 工事実施中は、ため池内の滞筋などを活用した動植物の生息・生育場所を確保するように努めること。

2-3. 基準標及び丁張

1. 受注者は、監督員から示された測量基準標を必要な期間、良好な状態に保たなければならない。基準標に異常が生じた場合は、監督員立ち会いのもとに修正、再建あるいは移設しなければならない。
2. 主要な丁張は、原則として段階確認検査が済むまでは保存し、損傷又は紛失した場合は新たに設置し、監督員の再検査を受けるものとする。

2-4. 工事中用仮設

受注者が施工する一般仮設は、工事施工に十分な規模で、労働基準法その他の関連法規に違反しないものとする。工事完了後は原形復旧を原則としてこれらの施設を速やか撤去し、後片付けを行うものとする。

- (1) 設計書及び設計図に指示されたもの、あるいは監督員が特に指示したもの（以下、「指定仮設」という）については、受注者は指定どおり施工する。ただし、受注者が代案を希望する場合は、関係図面を添付のうえ監督員の承認を得て実施することができる。この代案により設計変更が生じる場合は受発注者協議の対象とする。

- (2) 指定仮設以外の仮設（以下、「任意仮設」という）について、施工に先立ち周囲の状況、地盤反力、掘削深さ、土質、地下水位、土圧、乗載荷重等を十分検討し、設置場所、構造、規模、施工方法、構造計算、カタログ等を添付した施工計画書を作成し、監督員に提出しなければならない。任意仮設に伴う作物、道路、立木、板柵その他の損失補償は受注者の負担とする。

仮橋工、仮廻し水路工、仮設土留、仮締切工において、仮設H鋼及び鋼矢板等の打設、引抜きを行う場合、騒音、振動等の対策について十分に配慮するとともに、地域住民との協調を図り、工事の円滑な進捗に努めなければならない。

なお、騒音、振動の基準値は、「騒音規制法」及び「振動規制法」並びに設計図書によるものとする。

- (3) 仮設道路用地の整地復旧の詳細については、監督員、受注者及び地権者と協議のうえ決定することとする。
- (4) 仮設道路用地の整地復旧が完了した際は監督員にその旨を届け出て、監督員及び地権者の立会検査を受けた後に返還しなければならない。
- (5) 指示された仮設道路用地については、工事期間中受注者の責任で管理し、第三者による産廃物等の異物が搬入されないようにしなければならない。

保有個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

- 第1 乙は、甲が保有する個人情報（以下「保有個人情報」という。）の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）第66条第2項において準用される同条第1項の規定及び行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号。）第12条の規定に基づき、保有個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の保有個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

(管理及び実施体制)

- 第2 乙は、保有個人情報の適切な管理を確保する任に当たる者又は組織（以下「保護管理責任者等」という。）並びに権限を明らかにし、安全管理上の問題への対応や監督、点検の実施等の措置が常時講じられる体制を敷かなければならない。
- 2 乙は、この契約により、保有個人情報を取り扱う事務に従事する者の範囲、権限の内容等を明確化及び必要最小限化し、特定された従事者以外の者が当該保有個人情報にアクセスすることがないように、また、権限を有する者であっても、業務上の目的以外の目的でアクセスすることがないようにしなければならない。

(作業場所等の特定)

- 第3 乙は、この契約による事務を処理するため個人情報を取り扱うときは、その作業を行う場所及び当該個人情報を保管する場所（保有個人情報を取り扱う基幹的なサーバ等の機器を設置する室又は区域を含む。）を明確にし、あらかじめ甲の承諾を得るものとする。

(秘密の保持)

- 第4 乙は、この契約による事務に関して知り得た個人情報をみだりに他に漏らしてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

(収集の制限)

- 第5 乙は、この契約による事務を行うために個人情報を収集するときは、当該事務を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

(持出しの禁止)

- 第6 乙は、この契約による事務を処理するために必要がある場合を除き、甲から提供された保有個人情報又は保有個人情報が記録された資料等（端末及びサーバに内蔵されているものを含む。以下「記録媒体」という。）を作業場所又は保管場所の外へ持ち出してはなら

(複写又は複製等の禁止)

- 第7 乙は、この契約による事務を処理するために必要がある場合を除き、甲から提供された保有個人情報又は保有個人情報が記録された資料等（以下「保有個人情報等」という。）を複写し、又は複製してはならない。
- 2 前項の規定は、保有個人情報等の送信又は外部への送付、その他保有個人情報の適切な管理に支障を及ぼすおそれのある行為について準用する。
- 3 乙は甲から前2項の承諾を受けた場合、保有個人情報等の誤送信、誤送付、誤交付、誤廃棄、又はウェブサイトへの誤掲載等を防止するため、複数の従事者による確認や専用ソフトウェアの導入等の必要な措置を講じるものとする。

(利用及び提供の制限)

- 第8 乙は、甲の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務に関して知り得た保有個人情報を当該事務の目的以外の目的に利用し、又は提供してはならない。

(廃棄等)

- 第9 乙は、甲から提供された保有個人情報等が不要となった場合には、保護管理責任者等の指示に従い、当該保有個人情報等の復元又は判読が不可能な方法により、当該情報の消去又は記録媒体の廃棄等を行わなければならない。

(情報システムにおける安全管理措置)

- 第10 乙は、上記のほか、甲から提供された保有個人情報等を情報システムで取り扱う場合、その秘匿性等その内容に応じて、次の措置を講じなければならない。
- 一 アクセス制御のための認証機能設定、データ持出し時を含むパスワード等の定期又は随時見直し、読取り防止措置

- 二 作業場所等の入退管理やアクセス記録の保存、定期的分析を含むアクセス状況の監視、作業を行う端末の限定（台数管理、盗難防止措置を含む。）、バックアップ記録の作成
- 三 不正アクセス防止プログラム等の導入（最新化）をはじめとするサイバーセキュリティ水準の確保
- 四 その他部外者、第三者による閲覧（窃取）防止のために必要な措置

（従事者への研修）

- 第11 乙は、この契約による事務に従事している者に対して、おそれを含む事故発生時の対応のほか、在職中及び退職後において、この契約による事務に関して知り得た保有個人情報等の内容をみだりに他人に知らせてはならないこと、その他情報システムの管理、運用及びセキュリティ対策等の個人情報の保護に関し必要な事項を研修するものとする。

（再委託の禁止）

- 第12 乙は、この契約による保有個人情報を取り扱う事務を自ら行うものとし、甲の承諾があるときを除き、第三者にその取扱いを委託してはならない。

（資料等の返還等）

- 第13 乙は、この契約による事務を処理するために甲から提供を受け、又は自らが収集し、若しくは作成した保有個人情報等は、事務完了後直ちに甲に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、甲が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

（事故報告）

- 第14 乙は、保有個人情報の漏えい等安全管理上の問題となる事案が発生し、又は発生するおそれがあることを認識したときは、保護管理責任者等の指揮のもと、直ちに被害の発生又は拡大防止に必要な措置を講ずるとともに、併せて甲に報告し、甲の指示に従い、その他の必要な措置を講ずるものとする。
- 2 乙は、おそれを含め、前項の事案が発生した場合、その経緯、被害状況等を調査し、甲に書面で報告するものとする。ただし、書面報告を行う暇がない場合等はこの限りではない
- 3 乙は、第1項の事案が発生した場合であって、甲から保有個人情報の漏えい等に係る個人情報保護委員会への報告を求められたときは、甲の指示に従うこと。

（調査）

- 第15 甲は、乙に対し、保有個人情報等の安全管理状況について、随時実地の調査等を行うものとする。

（指示及び報告）

- 第16 甲は、必要に応じ、乙に対し、保有個人情報等の安全管理措置に関する指示を行い、又は報告若しくは資料の提出を求めるものとする。

（取扱記録の作成）

- 第17 乙は、甲から提供された保有個人情報等の秘匿性等その内容に応じて、当該保有個人情報等の取扱状況を記録し、甲に報告するものとする。

（運搬）

- 第18 乙は、この契約による事務を処理するため、又は当該事務完了後において個人情報が記録された資料等を運搬するときは、保有個人情報等の漏えい、紛失又は滅失等を防止するため、乙の責任において、確実な方法により運搬しなければならない。

（契約解除及び損害賠償）

- 第19 甲は、乙が保有個人情報取扱特記事項の内容に反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができるものとする。

注

- 1 甲は委託者である福岡県を、乙は受託者を指す。
- 2 前記特記事項中第1、第2、第4、第11から第14まで及び第19に掲げる事項については、必須事項である（契約書中に別に定めがある場合を除く。）が、その他委託事務の実態に即して、適宜必要事項を追加し、又は不要な項目を省略することができる。
- 3 「保有個人情報の秘匿性等その内容」には、特定の個人の識別の容易性の程度、要配慮個人情報の有無、特定個人情報の有無、漏えい等が発生した場合に生じ得る性質・程度等が含まれる。

搬出先一覧表

市町村	事業者	受入先住所
福岡市	松栄興産(有)	福岡市西区大字桑原字浦山1560-1
	吉松碎石(株)	①福岡市博多区立花寺497-1外
	(株)田上	福岡市早良区大字石釜333-9外
	(株)西興	福岡市東区東浜2丁目85-4
筑紫野市	(株)環境施設	筑紫野市大字山家2060-7
糸島市	(有)桜井管理	糸島市志摩桜井字杉山160-1外
	福岡建材(株) 糸島営業所	糸島市有田787-1
大野城市	福岡建材(株) 乙金営業所	②福岡県大野城市乙金東4-14-1
太宰府市	(株)西興 真砂土採取場	②福岡県太宰府市 大字北谷字山ノ下1074
宮若市	(株)双一開発	宮若市磯光1507-6外
宗像市	(株)木村組	宗像市吉田字轟23-1外
糟屋郡	福岡建材(株) 新宮営業所	粕屋郡新宮町上府862-2
	光碎石(有)	宇美町井野719-1外
遠賀郡	岡垣碎石(株)	遠賀郡岡垣町大字高倉2177番地外
	小西碎石(株)	遠賀郡岡垣町大字上畑字長谷257外
飯塚市	(株)中野土木	飯塚市内住619-1外

県営ため池等整備事業（一般）

奥野地区

ため池工事

特 記 仕 様 書

福岡県福岡農林事務所

第1章 総則

1-1 水替工

地表流出水及び湧水が堤内施工区域内に流入しないように溝等の適当な排水施設を設け、排水ポンプと釜揚げ等の方法により、掘削及び盛土等の作業に支障をきたさない程度まで排水をしなければならない。

1-2 進入路の補修

本地区への進入路となる既設の農道及び前年度までに設置した工事用仮設道路について、重機やトラックの通行により路面や法面に不陸や損傷が発生した場合は、一般の通行に支障が生じないように補修すること。なお、その際の補修費については、契約変更の対象としない。

1-3 工事材料承認

材料承認が必要な材料は、以下の材料承認が必要な材料一覧表に示すとおりである。監督員の指示があれば、以下に示す添付資料以外の資料についても、提出すること。

材料承認が必要な材料一覧表

区分	材料名	添付資料等
土砂・石材・骨材等	土（購入土、堤体盛土、建設汚泥改良土）・石材等	許可書等、試験成績書（別記1）
	骨材（新材・再生材）	同上
鋼材	構造用圧延鋼材、棒鋼	ミルシート
	PC用（ボステン）・アンカー用鋼材	
	鋼製ぐい及び鋼矢板（仮設材を除く）	ミルシート、カタログ等
セメント及び混和材	セメント	品質証明書
	混和材料	品質証明書、カタログ等
セメントコンクリート製品	セメントコンクリート製品一	（別記2）
	コンクリート杭・矢板	試験成績書、カタログ等
塗料	塗料一般	品質証明書、色見本等
その他	レディミクストコンクリート	（別記3）
	アスファルト混合物	（別記4）
	薬液注入材・薬剤等	品質証明書、カタログ等
	種子・肥料等	同上
	その他の工場製作品等	同上

（別記1）

土、石材等（碎石、粒度調整碎石、クラッシャラン、再生クラッシャラン、切込碎石、割栗石、碎石チップ、山ズリ、真砂土、護岸・捨石用石材等）について

（1）新材の場合

- ア．「岩石採取計画認可書（県知事又は通産局長が発行したもの）」の写しを添付すること。
- イ．「材料出荷証明書」（材料供給業者の印が必要、流通業者や商社印は不可）の写しを添付すること。
- ウ．「各種土質試験成績書」（品質確保のため監督員が必要と認める書類）を添付すること。
- エ．刃金土、さや土の購入土の試験成績書には、土粒子の密度試験、含水比試験、粒度試験、液性限界試験、塑性限界試験、突き固め試験、透水試験、三軸圧縮試験結果を添付し、最適巻きだし厚、最適転圧回数まで記載すること。刃金土については、D値95%以上、室内透水試験値が 5×10^{-6} cm/s以下とする。粒度分布として、0.075mm以下の細粒分を10～15%程度以上含有し、0.005mm以下の粘土分を5%程度以上含有していることを目安とする。さや土については、D値95%以上。

(2)再生材の場合

- ア．材料供給業者が福岡県認定リサイクル製品の優先利用で認定された業者であること。
- イ．「材料出荷証明書」（材料供給業者の印が必要、流通業者や商社印は不可）の写しを添付すること。
- ウ．「各種土質試験成績書」（品質確保のため監督員が必要と認める書類）を添付すること。

※各種土質試験は工事毎に実施することとする。監督員が品質の適合を確認できれば、(財)福岡県建設技術情報センターで実施した試験に限り、工事前年度（再生材は、半年前以内）の試験成績書により省略できるものとする。

(別記2)

セメントコンクリート製品一般（コンクリート二次製品）について

- ア．再生材の場合、材料供給業者が福岡県認定リサイクル製品の優先利用で認定された業者であること。
- イ．JIS製品の場合は添付資料を省略できる。材料搬入時に製品のJISマークを確認すること。荷重条件等により構造計算書が必要な製品は構造計算書を添付すること。

(別記3)

レディミクストコンクリートについて

- ア．再生材の場合、材料供給業者が福岡県認定リサイクル製品の優先利用で認定された業者であること。
- イ．JIS認定工場の場合は、配合設計書（配合報告書）のみの添付でよい。JIS認定工場以外の場合は試験成績書（使用材料、コンクリート強度）配合設計書、品質管理記録を添付する。

(別記4)

アスファルト混合物について

- ア．再生材の場合、材料供給業者が福岡県認定リサイクル製品の優先利用で認定された業者であること。
- イ．配合試験報告書を添付すること。
- ウ．試験は工事毎に実施することとする。監督員が品質の適合を確認できれば、(財)福岡県建設技術情報センターで実施した試験に限り、工事前年度（再生材は、半年前以内）の試験成績書により省略できるものとする。
- エ．アスファルト混合物事前審査制度の認定を取得している混合物については、上記と同様な位置付けとし、施工毎の配合試験を省略できる。

第2章 堤体掘削

2-1 堤体掘削工の範囲

堤体及び土取場の掘削は設計図書に示すとおりであり、掘削、運搬、仮置及び捨土に関するすべての作業が含まれる。

2-2 一般事項

(1)表土掘削

表土掘削とは、堤体その他地山の表面から取り除くように指示された全ての掘削をいう。

旧堤体上下流面から草木・根及び表土を剥ぎ取り、土捨て場へ捨て土する。

(2)泥土掘削

泥土掘削とは、堤内から取り除くように指示された全ての掘削をいう。

泥土掘削により生じた土砂は、良質土をさや土築堤に流用する。不良土及び残土は監督員の指示する土捨て場または承認した場所に仮置きする。

(3)堤体掘削

堤体掘削とは、旧堤体において表土掘削完了後に行う掘削をいう。

堤体掘削により生じた土砂は、不良土を除き全て堤体さや土に流用する。不良土及び残土は監督員の指示する土捨て場または承認した場所に仮置きする。

(4)トレンチ掘削

トレンチ掘削とは、基礎地盤の止水性を確保するための床堀をいう。

施工に当たっては、トレンチ基盤を損傷しないよう注意しなければならない。

(5) 段切

段切とは、旧堤体と築堤材料の密着を図るために実施する階段状の掘削をいう。

段切の標準的な高さは1.0mとし、段切土は不良土を除きすべて堤体鞏土に再利用しなければならない。

(6) 池敷掘削

池敷掘削により生じた土砂は全て土捨場へ捨て土する。

第3章 築堤（盛土）

3-1 築堤の範囲

築堤の範囲は、図面及び本仕様書に示した刃金土及びさや土の築造のための施設、労力及び機械の供給ならびに本工事に必要なすべての作業が含まれる。

3-2 築堤の区分

(1) 刃金土

刃金土はため池止水の目的のために施工する不透水性ゾーンである。

(2) さや土

刃金土の上・下流に配置する半透水性ゾーンである。

(3) 法面保護

上流側の小段から風波高の高さまで、図面で指示する法面保護工を施工し、それ以上の法面及び下流側法面には張芝工等の保護工を施工する。

3-3 一般事項

受注者は、共通仕様書に定める事項（第2編第17章 ため池改修工事 第3節 堤体工）の他、次の各号に従わなければならない。

- (1) 築堤は、監督員が特に指示しない限り、図面に示された計画斜面勾配及び断面に従って施工しなければならない。監督員が必要と認めた場合は、基礎幅、斜面勾配の増減、または、断面の変更を行うことがある。
- (2) 堤体の床堀及び切土の完了後、監督員は検査を実施する。築堤は検査に合格して初めて着手することができる。
- (3) 現場に搬入した材料を監督員が不相当と認めた場合、受注者はこれを除去し、指定場所に搬出しなければならない。
- (4) 用土のまき出しは、盛土全面にわたってほぼ水平にブルドーザ等承認された方法で行うものとする。
- (5) 盛土はタイヤローラ等で転圧作業を行うこととし、再び盛土を施工する場合、既成盛土の表層をかき起した後、次層をまき出し転圧作業を行うものとする。
- (6) 基礎面及び底樋・洪水吐等の構造物周辺は、人力で入念に施工するものとする。
- (7) 堤体天端の余盛りは、5～15cm程度とする。また、盛土斜面についても、0.5～1.0m程度余盛りを行い、正規断面に切り取って仕上げるものとする。
- (8) 貯水前に堤体盛土、転圧までを行い、翌年度以降に法面保護工を行う場合の法面は、以下の点に留意して施工しなければならない。
 - ① 貯水期間中に法面崩壊を起こさないよう、計画勾配により法面整形仕上げまで行っておく。
 - ② 既仕上げ面は翌年度以降の法面保護工事の際に再度掘削し、基礎面として整形することとする。
- (9) 受注者は、工事最終引き渡し以前に盛土の一部が崩壊した場合は、監督員の指示する範囲の材料を取り除き、再盛土を行わなければならない。もしその崩壊が受注者の落度から生じたと認められた場合には、材料の取り除き及び再盛土の全作業は受注者の負担において行わなければならない。

3-4 材料

(1) 一般

築堤材料は、購入土と堤体掘削より生ずる土砂を使用する。堤体の掘削と築堤の関係について予め十分な計画を立て、利用できる掘削材料を捨土したり、不良土を不必要にストックしたりすることのないようにしなければならない。

(2) 刃金土

刃金土は購入土とする。「1-1-2 工事材料承認」の項目で記載されている書類を、監督員に提出し承認を得ることとする。

刃金土はその材質としては、締め固め度*（以下「D値」という。）95%以上、室内透水試験値 $1 \sim 5 \times 10^{-6} \text{cm/s}$ 以下、粘着力（有効応力表示） 10kN/m^2 程度以上、内部摩擦角（有効応力表示） 30° 程度以上とする。また、粒度分布は 0.075mm 以下の細粒分を10～15%程度以上、 0.005mm 以下の粘土分を5%以上含有していることを目安とし、塑性指数は15以上が望ましい。

* 締め固め度（D値）＝現場における締め固め後の土の乾燥密度／室内締め固め試験における最大乾燥密度

(3) さや土

さや土は原則として堤体掘削土を流用とする。

購入する場合にはD値95%以上、堤体掘削土と同程度の土とする。

(4) 改良土

改良を行う土砂は、混入している雑草、木根、転石等を事前に除去し、改良材を十分に混入させた土を利用する。混合状態は、目視にてムラがなくなり粘り気がでるまで行わなければならない。原則、改良材はセメント系固化材を用いることとし、使用材料の承認を得た後、施工に先立ち監督と協議し室内配合試験を実施することとする。

3-5 含水比の調節

- (1) 盛土各層の材料は、必要な転圧効果を得るために、「3-7 施工管理」に規定する範囲内または監督員の指示した含水比を得るようにしなければならない。また、用土各層の含水比はできるだけ均一となるよう調節しなければならない。
- (2) 非常に湿潤な材料については、含水比が所定の範囲内に減じるまでできるだけ土取場上に、またやむを得ないと監督員が認めた場合は築堤上に広げ、必要があればレーキなどにより攪土し乾燥させなければならない。
- (3) 用土の含水比が高い時は、監督員が施工の一時中止を命じることがある。また、材料が乾燥し過ぎた時は、受注者は築堤の各層に散水するか、または含水比の高い材料を混ぜ、レーキその他の方法で含水量が全体に充分行き渡るようにしなければならない。
- (4) 築堤表面が乾燥し過ぎてその上に置く用土とうまく結合しないと監督員が認めた場合は、受注者は監督員が指示する深さまでレーキ等をかけて掻き起こし、乾燥材料を緩め、散水等により所定の含水比まで湿らせ、下層の築堤土と同等の密度まで転圧しなければならない。

3-6 締め固め

(1) 機械

刃金土及さや土ともに、原則としてタイヤローラまたは振動ローラを使用する。

(2) 刃金土の締め固め

運搬された材料は全体を最適含水比付近の様な含水比とするため、ブルドーザ等で混合し、所定の厚さにまき出し、ローラで所定回転圧するものとする。転圧は堤軸に平行に行う。ローラの入れない狭小部はランマ等でローラと同程度まで締め固めなければならない。築堤材をまき出し中、材料中に混入した根またはオーバーサイズ粒径（一層の仕上げ厚さの1/3以上）の石等は除去しなければならない。また、各層の轍は転圧前に充分埋戻しておかなければならない。

(3) さや土の締め固め

所定の厚さでまき出し、ローラで所定回転圧するものとする。転圧は堤軸に平行に行う。ローラの入れない部分は刃金土と同様、ランマ等で締め固めなければならない。築堤材をまき出し中、材料中に混入した根またはオーバーサイズ粒径（一層の仕上げ厚さの1/3以上）の石等は除去しなければならない。また、各層の轍は転圧前に充分埋戻しておかなければならない。

3-7 施工管理

3-7-1 土質試験

盛土試験に先だって土取場用土が遮水材として適しているか否かを判断するため、受注者は下記に示す土質試験を行い、その結果を監督員に提出しなければならない。（購入土の場合は、材料承認願いに添付するものとする。）

- (1) 土粒子の密度試験 (JIS A 1202) 1回
- (2) 土の粒度試験 (JIS A 1204) 1回
- (3) 土の含水比試験 (JIS A 1203) 1回
- (4) 締固め試験 (JIS A 1210) 1回

現場の盛土管理のために、最適含水比及び最大乾燥密度を求める。現場含水比は所定の締固め度を満足するよう管理しながら施工するものとする。

- (5) 室内透水試験 (JIS A 1218) 1回

刃金土の不透水性を確保するために、室内透水試験を行うものとし、透水係数は $k=1\sim5\times10^{-6}\text{cm/s}$ 以下とする。

3-7-2 盛土試験

(1) 一般

築堤にあたっては、転圧機械の重量、まき出し厚さ、転圧回数の確認及び材料の許容含水比、材料の選択等を決定するため、刃金土・さや土ともに盛土試験を実施する。

盛土試験の結果は監督員に報告し、まき出し厚さ、転圧回数について承認を得なければならない。

(2) 材料

材料は堤体盛土に使用するものと同じ築堤材料とする。

(3) 試験方法

まき出し厚は、刃金土・さや土とも20cm、25cm、30cmを基本とする。

転圧回数は、片道を1回と数え、刃金土・さや土とも6回8回転圧を基本とする。

転圧機械の締め固め速度は、作業現場で運行する標準速度で行うものとする。

施工方法については、別紙1を参照のうえ、工事監督員と協議し決定する。

(4) 現場密度試験

試験方法は原則として、砂置換法にて実施する。すべての区画において1区画当たり3点行うものとする。

(5) 現場透水試験

試験方法は原則として、地盤工学会基準「締め固めた地盤の透水試験 (JGS1316)」にて実施する。

(6) 変更

盛土試験の結果に基づいて、本仕様書に規定した盛土の施工方法及び管理基準の修正を行うことがある。受注者は、この変更事項を遵守しなければならない。なお、修正された施工方法について必要があると認められる場合は、設計変更の対象とする。

3-7-3 施工管理基準

(1) 施工管理の目的

刃金土及びさや土において、設計強度と必要な遮水性を満足する品質の盛土を築堤するために実施するものである。

(2) 品質管理基準

盛土の管理基準は、土木工事施工管理基準 (福岡県農林水産部) によるものとする。

試験項目	試験方法	測定基準	(参考) 規格値
現場密度の測定 (刃金土・さや土)	JIS A 1214 (砂置換法)	盛土高さが0.6mに達するごとにおおむね50m間隔で1回。	(刃金土) D値95%以上
現場透水試験 (刃金土)	JGS 1316 (立坑法)		$k=1\sim5\times10^{-5}\text{cm/s}$ 以下
現場含水比の測定 (刃金土・さや土)	フライパン法	1日1回。	(さや土) D値95%以上

(3) 現場試験の測定位置等

盛土施工時の現場密度試験の採取位置及び現場透水試験の測定位置については、監督員の指示に従うものとする。指示がない場合においても、管理単位各部ごとに偏りがないように試験を行わなければならない。

(4) 撮影記録による出来高管理

撮影記録による出来高管理については、堤体延長20m毎に1箇所の割合で、盛土幅員、巻きだし厚さ、転圧状況を撮影しなければならない。

第4章 取水施設工

4-1 斜樋工

受注者は、共通仕様書に定める事項の他、次の各号に従わなければならない。

- (1) 斜樋は盛土上に施工するため、掘削・埋め戻し作業については充分注意して作業を行わなければならない。
- (2) 斜樋管の布設時には、受け口・差し口等を充分清掃し、完全に接合するものとする。
- (3) 管巻立てについては、浮き上がり防止に充分注意して施工しなければならない。
- (4) 斜樋にはエアー抜きパイプを布設し、露出部は防塵設備及び保護設備を施工するものとする。
- (5) 斜樋管及び取水口の施工には漏水等のないように、充分注意して施工するものとする。

4-2 底樋工

4-2-1 底樋工

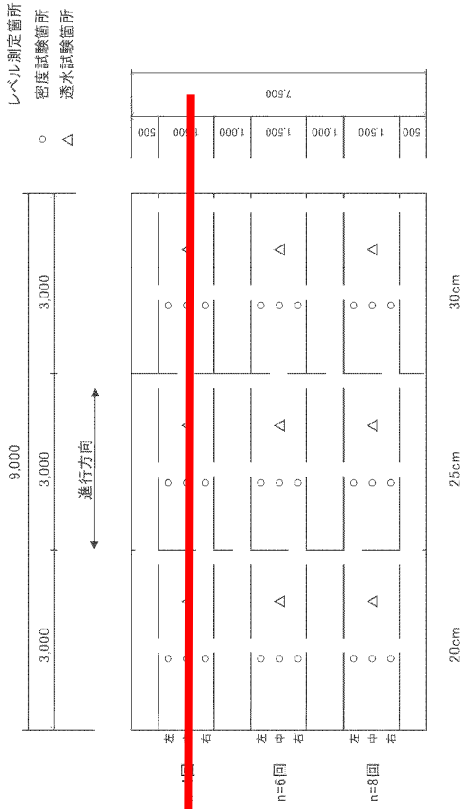
受注者は、共通仕様書に定める事項の他、次の各号に従わなければならない。

- (1) 底樋管の布設時には、受け口・差し口等を充分清掃し、完全に接合するものとする。
- (2) 管巻立てを行う場合は、管が浮き上がらないように番線等で固定した後に、コンクリート打設を行うものとする。
- (3) プレキャスト底樋管を使用する場合は、メーカーが規定する施工手順を遵守し、メーカーが規定する施工管理基準を満たさなければならない。
- (4) 底樋基礎面から巻立てコンクリートまたはプレキャスト底樋管の天端60cm上までの埋め戻しは刃金土を使用し、堤体盛立工に準じて施工しなければならない。
- (5) 底樋開削部の埋め戻し及び盛土材は旧堤体となじみよく取り付けるように施工しなければならない。

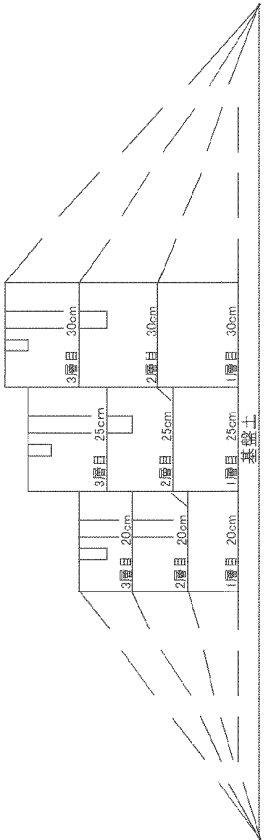
盛土試験（刃金土）

振動ローラー3.0~4.0t 級 搭乗式

SH=1:100 SV=1:20 (単位:mm)



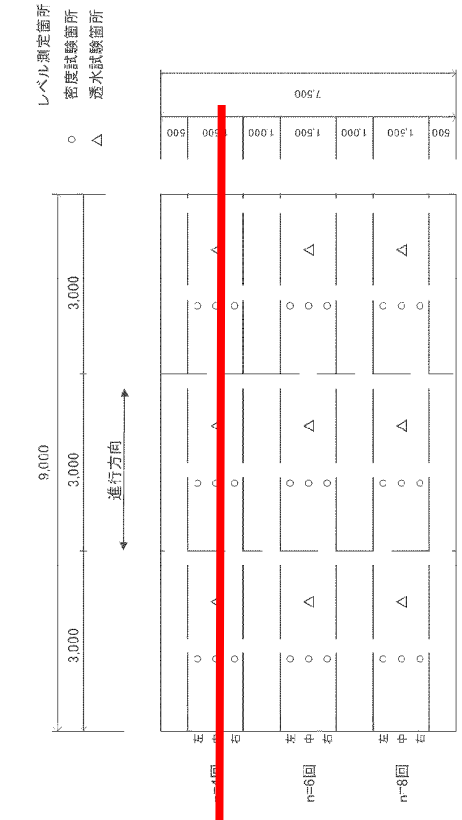
まき出し厚さ



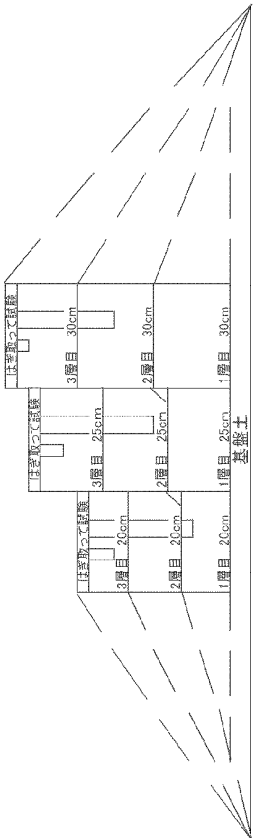
盛土試験（刃金土）

振動ローラー0.8~1.1t 級 ハンドガイド式

SH=1:100 SV=1:20 (単位:mm)



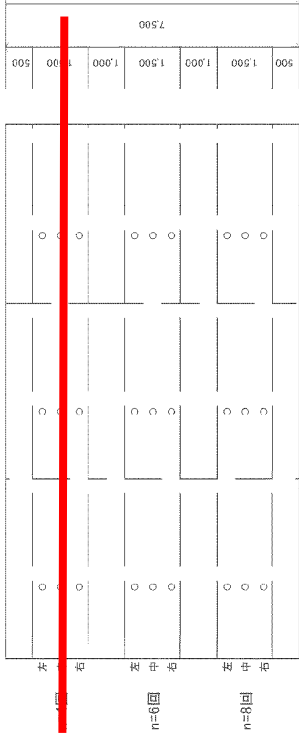
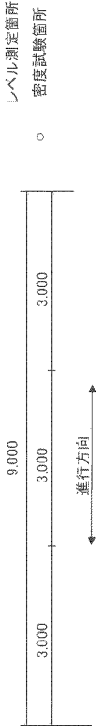
まき出し厚さ



盛土試験（さや土）

振動ローラー3.0~4.0t 級 搭乗式

SH=1:100 SV=1:20 (単位:mm)



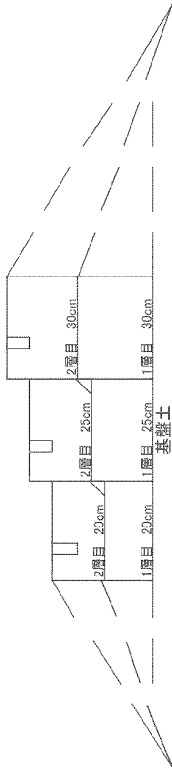
最大乾燥密度

さや土 D値=95%以上

透水係数

さや土 なし

まき出し厚さ

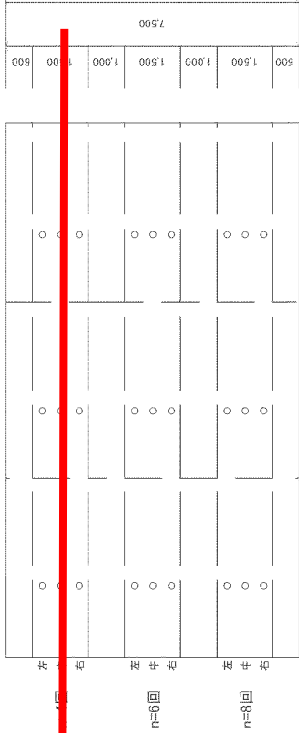
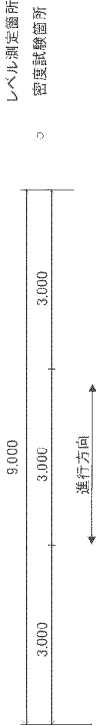


必要土量 $V=9.0 \times 7.5 \times 0.25 \times 2=33.8\text{m}^3+\alpha$

盛土試験（さや土）

振動ローラー0.8~1.1t 級 ハンドガイド式

SH=1:100 SV=1:20 (単位:mm)



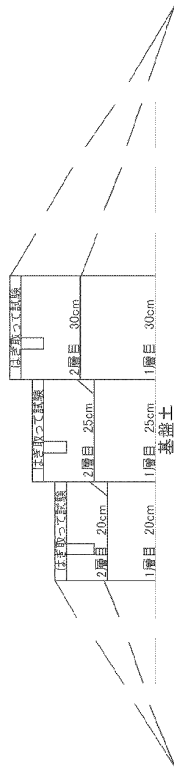
最大乾燥密度

さや土 D値=95%以上

透水係数

さや土 なし

まき出し厚さ



必要土量 $V=9.0 \times 7.5 \times 0.25 \times 2=33.8\text{m}^3+\alpha$

地盤（泥土）改良工事特記仕様書

令和 7 年 6 月

福岡県福岡農林事務所

地盤（泥土）改良工事特記仕様書

第1条 適用

この仕様書は、ため池等整備事業における地盤（泥土）改良工事に適用する。

第2条 作業条件

- 1 油圧回転式攪拌機又はバックホウによる、対象土量の地盤（泥土）改良を行うものとする。
- 2 使用材料については、石灰系固化材又はセメント系固化材とし、規格品質等の資料を提出し、監督員の承認を得なければならない。
- 3 配合量については、別紙図面図書によるものとする。
- 4 目標強度については、別紙図面図書によるものとする。

第3条 配合試験

- 1 配合試験は、実施配合を決定するため現地土の試料を採取し、室内配合試験を行う。
- 2 試験試料は、現地の代表的な試料を監督員の指示により採取すること。
- 3 試験配合は、3配合で行うが、監督員の指示により追加配合することがある。
- 4 供試体は、材令7日・28日強度試験用に各3個作成すること。
- 5 試験方法については、JIS A 1216（土の一軸圧縮試験）によるものとする。
- 6 試験結果は、速やかに整理し試験結果報告書として、監督員に提出し、その後の指示を受けなければならない。

第4条 工法及び使用機械

- 1 改良工法は粉体攪拌混合とし、監督員に施工計画書を提出し、その指示を受けなければならない。
- 2 原則として施工方法の変更は、設計変更の対象としない。
- 3 使用機械は、油圧回転式攪拌機を装備している機種又はバックホウとしているが、請負者の裁量により、機種機材の変更、或いは攪拌専用のアタッチメントの装着等の変更を行う場合は、予め監督員の承認を得なければならない。

第5条 施工

- 1 固化材の散布に際しては、予め施工範囲をブロック分けし、対象土量毎に所要の量を均一に散布しなければならない。
- 2 散布の作業中は、十分な安全対策を講じなければならない。
- 3 攪拌は、攪拌機端部ごとに通り返して行い、最初は攪拌深度を浅く、なおかつ回転速度を遅くし、固化材の飛散を防止した後に強度にムラが出ないように混合させ、設計深度を下回らないよう施工する。
また、改良部と未改良部の隙間が生じないように、十分にラップさせ未処理部分がないようにする。
- 4 攪拌完了後にできた凸凹は、十分に転圧・整形し規定面に仕上げなければならない。
- 5 施工中、対象土質が明らかに変化した場合、或いは含水比が著しい変化が認められた場合は、監督員に報告し、その指示に従わなければならない。

- 6 雨天又は強風時は、監督員と協議のうえ作業を中止しなければならない。
- また、降雨後及び湧水が見られる場合は、十分水替えを行い、品質の確保に努めなければならない。

第6条 施工管理・品質管理

下記表を「土木施工管理基準」に追記する。

1 施工管理

(単位：mm)

施工管理項目	施工管理基準値	規格値
基準高 上端	－0～＋65	－0～＋100
〃 下端	－65～＋0	－100～＋0
幅	センターより、左右それぞれ ＋200 －0	センターより、左右それぞれ ＋300 －0
厚み	センターより、上下それぞれ ＋65 －0	センターより、上下それぞれ ＋100 －0
施工延長	－0	－200

2 品質管理

区分	試験項目	試験方法	試験基準	規格値
配合試験	一軸圧縮試験	JIS A 1216	工事着手前1回 及び土質条件が 変わった場合。	－
施工	一軸圧縮試験	JIS A 1216	・5000m ³ 未満 1工種当り3回 ・5000m ³ 以上 1000m ³ 毎に1回	設計値 1.0以上 (設計強度以上)

その他「土木施工管理基準」に定めていない項目については、施工計画の段階で監督員と十分に協議し、それを実施しなければならない。

第7条 工事記録

下記の項目について、全工事完了後工事報告書として提出すること。

- ① 施工（出来高）展開図
- ② 施工管理図
- ③ 固化材搬入・使用量
- ④ 試験結果報告書

レディミクスト・コンクリート工
特 記 仕 様 書

福岡県福岡農林事務所

レディミクストコンクリート特記仕様書

第1条（総則）

- (1) この仕様書は一般コンクリート構造物に用いるレディミクストコンクリートについて、規定するものである。
- (2) レディミクストコンクリートを用いる場合には、JIS A -5308 及びコンクリート標準示方書によらなければならない。
- (3) ここにいうレディミクストコンクリートとは、以下の規定に従って製造され荷卸し地点に配達されるまでに固まらないコンクリートのことである。
- (4) ①レディミクストコンクリート工場は原則として JIS マーク表示許可工場で、且つコンクリート主任技士又はコンクリート技士の資格を持つ技術者のいる工場から選定しなければならない。
②レディミクストコンクリート工場の選定に際しては、現場までの運搬時間、コンクリートの製造能力、運搬車数、工場の製造設備、品質管理状態等を考慮し監督員の承認を得なければならない。

第2条（材料）

- (1) セメント……セメントは、次のいずれかに適合するものを用いる。
 - ① JIS R -5210 （ポルトランドセメント、呼称N…橋梁床板、間詰コンクリート、等）
 - ② JIS R -5211 （高炉セメントB種、呼称B B…上記以外の一般的なコンクリート）
- (2) 骨材……骨材は、JIS A-5308（レディミクストコンクリート付属書1）に適合したものでなければならない。但し付属書1の中でアルカリ骨材反応に関してだけ規定に適合しない骨材でもアルカリ骨材反応抑制対策を講じる場合は、使用することが出来る。この場合の対策方法は、付属書6の3、4及び5に規定する方法の中から甲乙協議して決めなければならない。又、アルカリ骨材反応試験は化学法又はモルタルバー法により試験し、結果は生コン工場の試験成績書に明記しなければならない。
- (3) 水……水は、油、酸、塩化物、有機不純物、懸濁物等コンクリート及び鋼材の品質に影響を及ぼす物質を有害量含んでいてはならない。
- (4) 混和材料……混和材料は、コンクリート及び鋼材に有害な影響を及ぼすものであってはならない。

第3条 (配合種別)

(1) レディスクレストコンクリートの配合種別は次のとおりとする。

コンクリート構造物の設計基準強度と生コンクリート使用基準の選定方法

無筋・鉄筋別	区分・番号	適用工種	許容 縮 応 力 σ _{ca} N/mm ²	設計 強 度 σ _{ck} N/mm ²	生呼 び コ 強 度 N/mm ²	設計仕様書				セ メ ン ト の 種 類	備 考			
						粗最 骨大 材寸 の法 mm	ス ラン プ cm	最セ メント 水比 W/C %	最セ メント 小量 kg/m ³					
無筋 コン クリ ート	①	重力式・半重力式(橋台、橋脚、擁壁、胸壁)	4.5	18	18	40	8±2.5	65	—	高炉セメント(B種以上)				
	②	根固ブロック・水路・格子枠・基礎・裏込・側溝	4.5	18	18	40(20~25)	8±2.5	65	—	〃				
	③	均し	—	—	18	40	8±2.5	—	—	〃				
	④	海岸構造物	基 礎 ・ 裏 込 ・ 根 固 め	4.5	18	18	40	8±2.5	65	—	〃			
			海 岸 堤 防 波 除 工 ・ 海 岸 擁 壁	4.5	18	18	40	8±2.5	65	—	〃			
			海 岸 堤 防 表 張 工	4.5	18	21	40	8±2.5	65	—	〃			
⑤	治山ダム(堤体、側壁、水叩)	4.5	18	18	40	8(12)±2.5	—	—	〃					
⑥	トンネル環工	ア ー チ ・ 側 壁	—	18	18	40	15±2.5	65	(270)	〃				
		イ ン バ ー ト	4.5	18	18	40	8±2.5	65	(230)	〃				
鉄 筋 コ ン クリ ート	⑦	R C 橋場 所 打 床 版 橋	8.0	24	24	20(25)	8±2.5	55	—	普通ポルトランドセメント				
	⑧	P C 橋	ポストテンション	T桁橋	18.0	40	40	20(25)	8±2.5	55	—	早強ポルトランドセメント		
				横桁・間詰床版	14.0	30	30	20(25)	8±2.5	55	—	〃		
				箱桁橋	16.0	36	36	20(25)	8±2.5	55	—	〃		
				中空床版橋	16.0	36	36	20(25)	8±2.5	55	—	〃		
		プレテンション	横桁・間詰床版	14.0	30	30	20(25)	8±2.5	55	—	〃			
			床版橋の間詰	14.0	30	30	20(25)	8±2.5	55	—	〃			
			プレキャストセグメント桁橋	18.0	40	40	20(25)	8±2.5	55	—	〃	現地製作		
		⑨	床 版	PC合成桁	RC床版	8.0	24	24	20(25)	8±2.5	55	—	普通ポルトランドセメント	
					PC(合成)床版	8.5	30	30	20(25)	8±2.5	55	—	〃	
	鋼非合成桁				RC床版	8.0	24	24	20(25)	8±2.5	55	—	〃	
	RC床版				9.0	27	27	20(25)	8±2.5	55	—	〃		
	鋼合成桁				PC床版	8.5	30	30	20(25)	8±2.5	55	—	〃	
	⑩	地覆・壁高欄	8.0	24	24	20(25)	8±2.5	55	—	〃				
	⑪	堰・水門・ポンプ場	7.0	24	24	20(25)~40	8±2.5	55	—	高炉セメント(B種以上)				
	⑫	樋門・樋管	8.0	24	24	20(25)~40	8±2.5	55	—	〃				
	⑬	橋梁下部工(路掛版含む)	8.0	24	24	20(25)	8±2.5	55	—	〃				
	⑭	潜函・函渠・擁壁・井筒	8.0	24	24	20(25)~40	8±2.5	55	—	〃				
	⑮	場 所 打 杭	水中:ベノ杭 リバース杭	8.0	24	30	20(25)~40	15±2.5 18±2.5 21±1.5	55	350	〃			
大気中:深礎工			7.0	24	24	20(25)~40	8±2.5	55	—	〃				
⑯	その他	7.0	21	21	20(25)~40	8±2.5	55	—	〃					

- 注) 1. 設計基準強度(σ_{ck})とは、コンクリート構造物の設計において基準とするコンクリートの圧縮強度をいう。なお、均しコンクリートについては構造計算上考慮するものではなく、地盤または基礎砕石等の表面の凹凸を平均化し、鉄筋組立やすみ出し作業等を容易にする目的のコンクリートであるので、設計基準強度(σ_{ck})は規定しない。
2. 呼び強度とは、レディークレストコンクリートにおける強度区分を示す呼称であり、JISA5308で保障される圧縮強度をいう。
3. 区分番号④、⑯の適用区域は、河川における高潮区間と海岸区区域とする。
4. 区分番号⑧のポストテンション箱桁橋の片持ち架設工法の場合は $\sigma_{ck}=40\text{N/mm}^2$ とする。
5. 区分番号⑧のポストテンションT桁橋及びプレテンションT桁橋・床版橋の定着部を有する張出床版部の場所打コンクリートは $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とする。
6. 区分番号⑧のポストテンションT桁橋及びプレテンションT桁橋・床版橋の定着部を有しない張出床版部の場所打コンクリートは $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ とする。
7. 区分番号⑨の床版コンクリート打設の場合、コンクリートポンプ車を使用する場合でもスランプは8cmを目標として10cmを超えてはならない。
8. 区分番号⑩の地覆・壁高欄は、普通ポルトランドセメントを標準とする。ただし、橋台、擁壁上に設置する場合はそれと同等の規格とする。
9. 区分番号⑬の潜函井筒に使用するセメントは早強ポルトランドセメントとする。
10. 区分番号⑮の水中コンクリートは、最大水セメント比(W/C)及び最小セメント量(C)を指定している。
11. 区分番号⑮の深礎工($\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$)については、標準値であり指定強度ではない。
12. コンクリート耐久性及び塩害対策等現場の特殊性により、上記により難しい場合は別途考慮する。
13. 耐久性より水セメント比、単位セメント量が決められた場合は、 σ_{ck} 以上の呼び強度が得られる場合があるので注意を要する。

第4条（品質）

レディミクストコンクリートの品質は、荷卸し地点で、次の条件を満足するものでなければならない。

- （1） 強度……コンクリートの強度は、JIS A-5308 レディミクストコンクリート 8-2 に規定する強度試験を行った場合、次の規定を満足するものでなければならない。
 - ① 1回の試験結果は、指定した呼び強度の値の85%以上でなければならない。
 - ② 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度の値以上でなければならない。
- （2） スランプ……第3条配合種別のとおり
- （3） 最大水セメント比……第3条配合種別のとおり
- （4） 空気量 $4.5 \pm 1.5\%$
- （5） 塩化物量
 - ① 鉄筋コンクリート、ポストテンション方式のプレストレストコンクリート及び用心鉄筋を有する無筋コンクリートの場合は、打設前におけるコンクリート中の全塩素イオン重量を 0.6 kg/m^3 以下とする。
 - ② プレテンション方式のプレストレストコンクリートの場合及びシース内のグラウトの場合は、打設前におけるコンクリート中の全塩素イオン重量を 0.3 kg/m^3 以下とする。

第5条（製造）

- （1） 製造設備
 - ① 材料貯蔵設備……JIS A-5308(レディミクストコンクリート)の規定を準用する。
 - ② バッチングプラント
 - ③ ミキサ
 - ④ 運搬車……運搬車は次のとおりとする。

レディミクストコンクリートの運搬には、つぎの性能を持つトラックアジテータを使用する。運搬車は、練り混ぜたコンクリートを十分均一に保持し、材料の分離を起こさずに、容易に完全に排出出来るものでなければならない。

運搬車は、その荷のおよそ $1/4$ と、 $3/4$ の所から個々に試料を採取してスランプ試験を行った場合、両者のスランプの差が 3 cm 以内になるものでなければならない。
- （2） 材料の計量……JIS A-5308(レディミクストコンクリート)の規定を準用する。
- （3） 練りませ……JIS A-5308(レディミクストコンクリート)の規定を準用する。
- （4） 運搬……レディミクストコンクリートの運搬は(1)の④に規定する運搬車によるものとする。コンクリートは練混ぜをしてから原則として 90 分以内に荷卸しができるように運搬しなければならない。特に暑い季節やコンクリートが早く凝結し易い場合は時間を短縮することができる。

第6条（受け入れ）

- （1） コンクリートの打込みを円滑に行うため、打込み前に、納入日時、コンクリートの種類、数量、荷卸し場所、打設等を生産者と十分打合わせておかなければならない。
- （2） 打込み中にも生産者と十分連絡をとり、コンクリートの打込みが中断しないようにしなければならない。
- （3） コンクリートの荷卸し場所は、運搬車が安全かつ円滑に出入りすることができ、荷卸し作業が容易にできるようにしなければならない。
- （4） 荷卸しは材料分離が起こらないように行われなければならない。

第7条（品質管理）

- （1） 請負者は、第4条に規定する種別のコンクリートの品質を保証するために、福岡県農林水産部が定めた「農業農村整備事業土木工事施工管理基準」による品質管理を行わなければならない。
- （2） 請負者は、監督員の要求があれば、品質管理の試験の結果を提示しなければならない。

第8条（その他）

- （1） 請負者は、レディミクストコンクリート購入に際し、製造者より運搬の都度、各運搬者ごとに搬入したコンクリート量を明らかにするため、レディミクストコンクリート納入書を徴しなければならない。
- （2） 1により徴した証票は、請負者において保存し、工事検査に際し監督員に提出するものとする。
- （3） その他疑義が生じた場合は、監督員と打合協議のうえ施工しなければならない。

福岡県農林水産部
土木工事共通仕様書

省略

令和7年4月1日
福岡県農林水産部